

2018 年度埼玉組鹿児島研修旅行

実施報告書

2019 年 8 月 30 日

埼玉組執行部

「埼玉組鹿児島研修旅行」に寄せて

2018年度の埼玉組では、6月11日及び12日の2日間に渡り、鹿児島県での現地研修をして参りました。

主な目的は、鹿児島の「隠れ念仏」についての学習です。研修では、大谷派鹿児島別院、立山隠れ念仏洞、知覧特攻平和会館、ミュージアム知覧等に足を運び、隠れ念仏や戦争中の貴重な資料を拝見致しました。

「隠れ念仏」というのは鹿児島県特有のものですが、「隠れ念仏」という名称は昭和31年発行の『日本歴史大辞典』に当時、鹿児島大学の桃園恵真氏が江戸時代における薩摩藩の一向宗禁制をわかりやすく言うために「隠れ念仏」と名付けられたようです。

知覧特攻平和会館より南西へ約5km、のどかな立山地区に「立山隠れ念仏洞」があります。鬱蒼とした森を進むと広場があり、ガマと呼ばれる洞穴が口をあけています。現在は整備されていますので行くことは容易いですが、当時はさぞわかりにくかったことでしょう。一人がやっと通れる狭い入口より入り、三～四段、土の階段を降りて左に曲がり、それから右に直角に曲がったその奥に御本尊が安置してありました。ほんとうに息も苦しくなるようなこの狭い洞穴の中でお念仏を相続なさっていたことを思うと、先達のご苦勞が偲ばれます。生まれてきたことも、死に行くことも、ともに受け止めて力強く歩んで行くことができるお念仏のみ教え。この御本尊は勿論最近置かれたものとのことでしたが、当時の民衆の篤い思いが伝わってきます。

また、大谷派鹿児島別院でも隠れ念仏に関する貴重な資料を前に、職員の方からご説明を頂く機会がありました。お話しの中で、お念仏をしている所を見つかった者は厳しい弾圧にあったわけですが、誰一人として仲間を売るようなことは無かったそうです。「私個人の信心ならばすぐに仲間のことを話したでしょうが、この信心は『如来よりたまわりたる信心』阿弥陀様の信心を売ることは出来ない」と伝わっているそうです。また、海に生きる動物、山に生きる植物、生きとし生きるもの全てが等しく尊い命という親鸞様の教えを強く信じていたために拷問を受けている最中でさえ、「役人様はまだ親鸞様の教え、お念仏の教えに出遇われていない。権力や暴力で解決なさろうとしている。私は痛い目に遭っていても黙って受け入れる」といった事でした。現在は厳しい弾圧も解かれ、お念仏を自由に称えられるようになりましたが、命がけで伝えてくれた先達のようにお念仏の教えを聞いているだろうかと問題提起をして下さいました。

今回の旅で感じましたことは、何と私たちは自由平和な環境で報恩のお念仏を相続させてもらっているかということです。このことは「もったいない」の一言につきます。

埼玉組組長 大滝和明



知覧特攻平和会館

知覧（現南九州市）は第二次世界大戦末期、沖縄戦の劣勢を一挙に挽回するため、人類史上類のない特攻作戦が展開されたゆかりの地です。

この知覧特攻平和会館は、第二次世界大戦末期の沖縄戦において特攻という人類史上類のない作戦で、爆装した飛行機もろとも敵艦に体当たり攻撃をした陸軍特別攻撃隊員の遺品や関係資料を展示しています。この地が出撃基地であったことから、特攻戦死された隊員の当時の真の姿、遺品、記録を後世に残し、恒久の平和を祈念することが基地住民の責務であろうと信じ、ここに知覧特攻平和会館が建設されました。

館内には、特攻戦没者 1,036 名（うち知覧から出撃 436 名）の特攻隊員の遺影が出撃順に掲げられ、彼等が残した遺書や辞世の句、家族への手紙、遺品などが展示されている他、日本でただ一機現存する陸軍三式戦闘機”飛燕（ひえん）”や陸軍四式戦闘機”疾風（はやて）”、海から引き上げられた零戦（海軍零式戦闘機）、そのほか戦闘機や戦争関係資料が展示されています。

なお、館内は撮影禁止です。実際に足をお運び頂き、ご自分の目でご覧になって頂きたい。



ミュージアム知覧

知覧特攻平和会館に隣接し、南薩摩の歴史と民族を多角的に紹介している博物館。

音や映像で楽しむシアターや武家屋敷の調度品や古文書を展示しているギャラリーなどがあります。また、弾圧されながらも念仏を唱えた「かくれ念仏」についての資料も多数展示されています。

島津氏が300年に渡って禁制していた念仏信者たちへの迫害。キリシタン迫害は有名ですが、真宗信者迫害はあまり知られていません。実際に、特攻平和会館のついでだからと入館された方が、「隠れキリシタンは知っていたが、隠れ念仏の存在は初めて知りました」と話され、興味深くご覧になっておりました。

当時の人々の強く大きい思いが、展示からも伝わってくる場所でした。



立山かくれ念仏洞 (たちやまかくれねんぶつどう)

内部は、奥行き4m、更に左奥へ6mの念仏洞 (ガマ)。

平成14年にガマはモルタルで補強されたそうですが、とにかく狭い横穴でした。奥に4~5人が屈んで留まることのできる空間があり、その奥に2人が何とか入れる小さなスペースがあり、御本尊が安置されておりました。



鹿児島別院

鹿児島における本願寺教団の歴史は、明治九年に開始されました。明治二十三年に、当地に本堂が建立され、教化の中心的役割を果たし、教線が拡大していったのです。約五百年前に始まる薩摩の真宗門徒の歴史があったからこそと言えます。

研修二日目に、鹿児島別院に参拝させて頂き、「かくれ念仏」のお話を拝聴いたしました。

別院には、見かけは箆笥で扉を開くと仏壇という「隠し仏壇」などの、かくれ念仏に関する展示コーナーがあります。



島津家別邸「仙巖園」

仙巖園（せんがんえん）は別名を磯庭園（いそていえん）、磯の御殿とも言う薩摩藩・島津家の別邸跡で、素晴らしい庭園などが残っており、国の名勝に指定されています。

なお、2015年には明治日本の産業革命遺産となり、世界文化遺産にも登録が決定しました。大河ドラマ「西郷どん」の御前相撲のシーンを撮影が行われた場所でもあります。



有村溶岩展望所

桜島の、有村溶岩展望所。大正3年（1914）の大正噴火によって、流れ出た溶岩の上にある観光施設。現在も活動が続ける、桜島南岳の火口に最も近い所にある展望所で、一面を覆う溶岩原は大噴火の壮絶さを物語っています。

6月11日14時31分に噴火が発生し、噴煙が上がっていました。鹿児島の方にとっては、噴火や降灰は雨のように当たり前の日常だそうです。

その他訪問地



JR 西大山駅

JR 日本最南端の駅である、指宿枕崎線 西大山駅。畑の中にたたずむこの駅は、正面に臨む、別名「薩摩富士」とも言われる開聞岳が目の前に迫る景観も見所です。



黒酢の里 楠志田

錦江湾を挟んで桜島を間近に見ることができ、自然豊かな鹿児島県霧島市福山町は、かめ壺仕込みの黒酢で有名です。

玄米黒酢を醸造している壺畑の見学や、黒酢の試飲をさせていただき、黒酢関連の販売コーナーにも立ち寄りさせていただきました。



バレルバレープラハ

鹿児島空港に隣接し、老舗の麴屋である河内源一郎商店グループが運営する麴のテーマパークです。麴に関する展示、焼酎などの工場見学や試飲をさせていただきました。



鹿児島島の屋根付き墓所

鹿児島島では、屋根付きの墓所が多く見られます。瓦屋根のものやトタン屋根のものなどその家庭によって屋根を自由に作っているのが伺えます。桜島の火山灰を避けるためと言うのが由来だそうです、仏様を敬う気持ちが大きいからこそ、立派な造りになっているように思えます。

また、当地方では墓石の文字を金色に施すのが一般的です。